

Version 2.0
Japanese

TTC

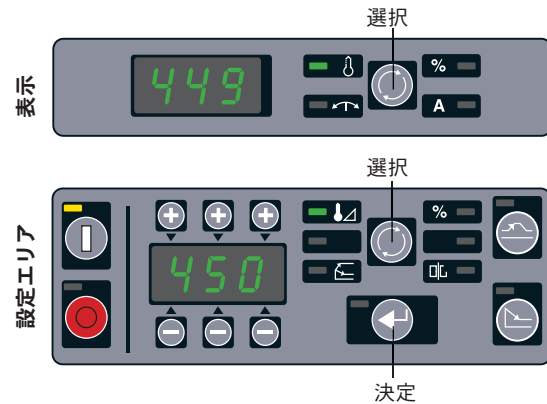
インターナショナルインタフェース

高レベル設定/トラブルシューティング



TTC スクロール

- 1 列のスクロール**
スクロールするゾーンを選択
表示エリアの選択と入力を共に押します
選択された列がスクロール
グループにあるゾーンを表示
列を自動的に表示
- 2 ゾーンのスクロール**
スクロールするゾーンを選択
変更エリアの選択と入力を共に押します
選択されたゾーンがスクロール
グループ内のゾーンを個々に表示



エラー



起動エラー

E-0 = ゾーンが見つかりません
E-1 = 設定のミスマッチ

解決法(変更エリア- 入力)

以下のどれかを行うようインタフェースに指示します：
1- 設定をシステムから読み取ります (推奨)
2- インタフェースからシステムに設定を送ります
3- ゾーンの位置を確定 (ゾーンファインダー)

メニュー取り込みエラー

E-2 = メニューのミスマッチ、取り込み不可、入力を押してクリアします

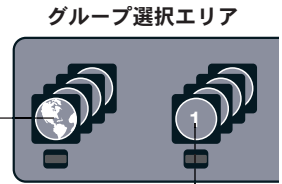
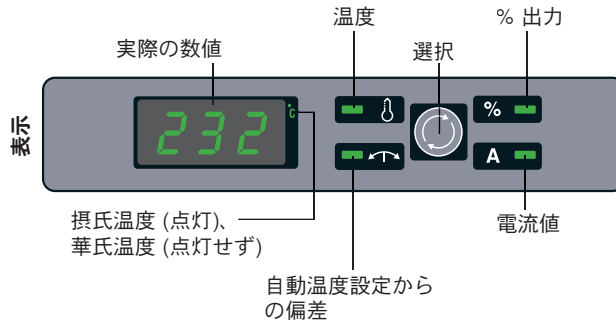
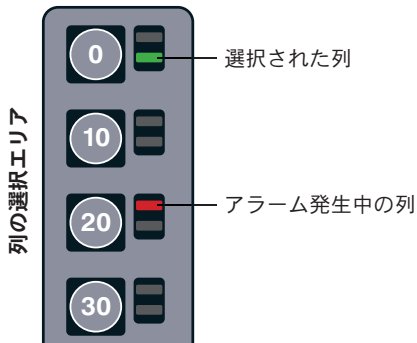


Gammaflux®



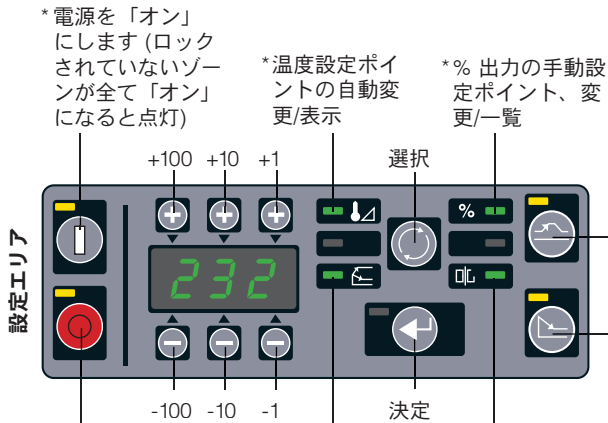
ガンマフラックス

スターリング (米国ヴァージニア州) 電話 +1-(703) 471-5050
ウィスバーデン (ドイツ) 電話 +49-(0)-611-973430
宇部市 (日本) 電話 +81-(836) 54-4369
シンガポール 電話 +65-901-83710
www.gammaflux.com; www.gammaflux.de



「全グループ」 - システムの全ゾーンを選択

* 「カスタム・グループ」 - ユーザーのゾーングループを設定。各ゾーンを選択して保存し、カスタムグループ・ボタンが光るまで押します



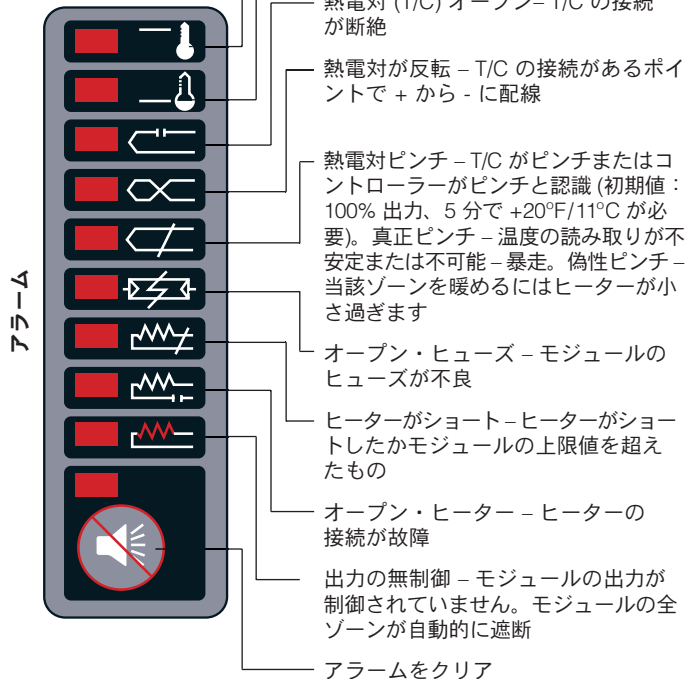
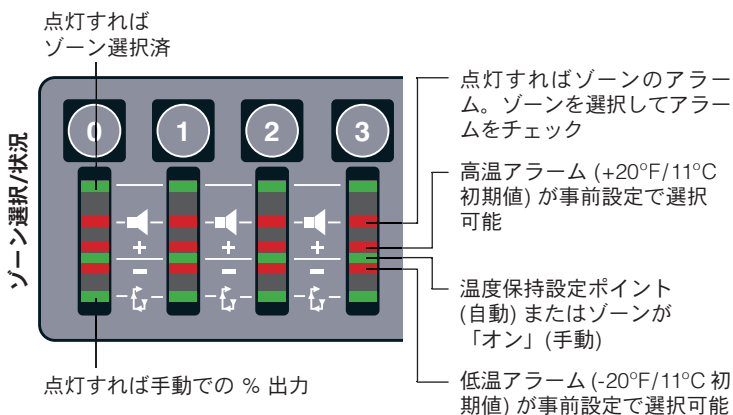
ブースト - 選択されたゾーンの一時的な昇温。事前設定で温度や時間制限の調節が可能 (ブーストをキャンセルするには、ブーストを再度押します)

スタンバイ - (選択されたゾーン) 自動設定ポイントを事前設定の温度 (220°F/104°C デフォルト) に変更、手動 % 出力設定を半分にカット。材料保護/スタンバイ・リモートインプットの提示が可能。高レベルの設定を参照してください。(スタンバイを取り消すには、スタンバイを押します)

* 電源を「オフ」にします (ゾーンが全て「オフ」になると点灯)

トリム - 選択されたゾーンの固定・自動設定ポイントの変更 (± 20°F/11°C 初期値)。ゾーンを選択し、変更数値を入力すると、選択されたゾーンは全て変更されます

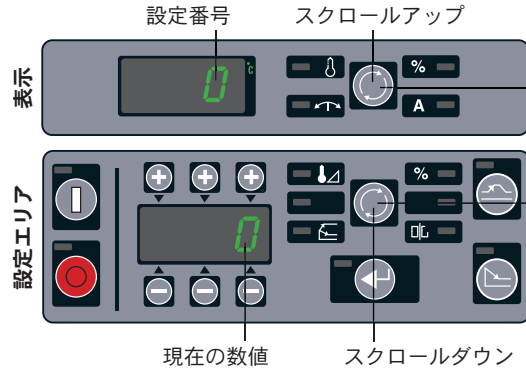
* 自動/手動ロックのオペレーション、変更/表示



* メニューに保存済

高レベル設定

TTC インターナショナル・インタフェースは、出荷時に下記の基本設定は完了しています。自動および手動での設定ポイントが入力でき、ゾーン電源を「オン」にすることでゾーンのコントロールができます。お客様それぞれのご使用状況を満たすために、下記基本設定の変更が可能です。このページでは、「高レベル設定」の基本を説明します。オペレーター/技術者で操作可能な範囲を設定できます。これをセキュリティーといいます。TTC インターナショナル・インタフェースにセキュリティーを設定するには、それぞれのセキュリティー番号を選択して下さい。



高レベル設定の方法
両方の選択ボタンを同時に押し続けてしばらくしてから離します。高レベル設定モードでは、選択 LED の灯が消え、表示は共に「0」になります。

高レベル・設定のガイド – 変更のためのレベル 2 セキュリティー

#	限度(初期値)	説明(*メニューに保存済)	ゾーンごとに個々に設定
(0)	0-10 (0)	モールドの設定を元に戻す - 高レベル設定にアクセス。0 - 表示エリア。メニュー 1~10 を選択。入力を押して復旧	
(1)	0-10 (0)	モールドの設定を保存 - 高レベル設定にアクセス。1 - 表示エリア。メニュー 1~10 を選択。入力して保存	
(2)	+/-100°F/55°C (20°F/11°C)	* 温度設定ポイントのブースト。2 - 表示エリア。ブースト時に自動設定ポイントに加える温度	
(3)	0 ~ 300 秒 (60)	* 時間設定ポイントのブースト。3 - 表示エリア。ブーストが作動する時間	
(4)	-31 ~ 27 (0)	アルゴリズム設定ポイント (表示のみ)。オート・チューニングあるいはマニュアル・チューニングの値を表示	
(5)	0-1000°F/537°C (20°F/11°C)	* 温度の偏差アラーム・設定ポイント。設定温度に対して ± °C の許容範囲	
(6)	0-1000°F/537°C (220°F/104°C)	* スタンバイ・設定ポイント (個別) : スタンバイの作動中は、スタンバイグループにある全ての自動ゾーンをこの設定ポイントでコントロール	
(7)	-31 ~ 27 (0)	* コントロール・アルゴリズム調節 (個別)。0 = 自動選択。実際のチューニング値を表示するにはコード 4 を選択。手動選択 : 10~17 で次第に間隔が増大。20~27 スロー・チューニングで次第に間隔を増大。-1 = ベリーファースト・チューニング、-17~-10 ファースト・マニフォールド・チューニングで次第に間隔を増大。-27~-20 ベリーファースト・チューニングで次第に間隔を増大。-30~-31 ウルトラ・ファースト・ローマンス・チューニング。P = 自動選択調節完了 (表示エリア)。	
(8)	0 ~ 54.0 分 (5)	T/C ピンチの検出時間 (個々)。0 = 通常 (98+% 出力、5 分で 20°F/11°C)。アラームタイマー数値を変更	
(9)	0-1000°F/537°C (999°F/537°C)	* 重大温度超過アラーム。8 秒間この温度を上回る場合、自動になっているゾーン全てが「オフ」になります	
(10)	0-1000°F/537°C (999°F/537°C)	* マテリアル保護時間。信号が回復しない限り、スタンバイグループを起動させる。22-132 VAC/VDC インพุット信号からの時間の長さ	
(11)	0-100% (100%)	* 手動設定ポイントの限度。オペレーターが手動入力できる最大設定ポイント	
(12)	0-1000°F/537°C (50°F/28°C)	* ブーストの限度。ブースト中にオペレーターが上下できるゾーンの最大度数	
(13)	0-1000°F/537°C (100°F/56°C)	* トリムの限度。トリム中にオペレーターが永久変更できるゾーンの最大度数	
(14)	0 または 1 (0)	* マテリアル・プロテクションのインพุットを有効にします。インพุットが選択された時間で反復するのが見られなければ、スタンバイグループを起動。0 = 「オフ」 ; 1 = 「オン」	
(15)	0 ~ 1000秒 (0)	* マテリアル保護時間。信号が回復しない限り、スタンバイグループを起動させる。22-132 VAC/VDC インพุット信号からの時間の長さ	
(16)	0-2 (0 = 全ゾーン)	* スタンバイ・グループの設定。リモートでの入力によって起動された時、スタンバイになるゾーンを選択。0 = 全て、1 = 表示、2 = 記憶	
(17)	0-2 (0 = 全ゾーン)	* スリープのパワーアップ・グループを設定。設定ポイントになるまで 20°F/11°C 内で互いに加熱するゾーンを選択。0 = 全て、1 = 表示、2 = 記憶	
(18)	0-4 (0)	* Power Priority™。0 = (オフ)。1~4 = 出力の平滑化増大。A = Power Priority™ 作動中 (表示エリア)	
(19)	0 または 1 (0)	スリープのパワーアップの起動。0 = 「オフ」、1 = 「オン」	
(20)	0 または 1 (0)	* 摂氏または華氏の温度数。0 = 「華氏度数」、1 = 「摂氏度数」	
(21)	0 または 1 (0)	J または K 熱電対の選択を打ち込む。0 = 「タイプ J」、1 = 「タイプ K」	
(22)	0 または 1 (0)	パワー・アップでのゾーンのパワー状況。0 = 「全ゾーンをオフにする」、1 = 「シャットダウンが続く時、ゾーンをオンにする」	
(23)	---	* 今後のご利用をお待ちしています	
(24)	---	今後のご利用をお待ちしています	
(25)	0-999 (なし)	セキュリティーコード・レベル 1。変更するにはレベル 2 であること。リフレッシュ手続きが可能。ガンマフラックスにご連絡ください	
(26)	0-999 (なし)	セキュリティーコード・レベル 2。変更するにはレベル 2 であること。リフレッシュ手続きが可能。ガンマフラックスにご連絡ください	
(27)	0-999 (カスタム)	ゾーン・ファインダー (ゾーンの位置を確定)。新しいハードウェアを発見します。起動するには 999 を入力。システムにある利用可能なゾーンの数を表示します	
(28)	0 (0)	LED テスト。起動するには、0 を入力。トラブルシューティングには、全ての LED を「オン」にします	
(29)	---	出力・モジュール・ソフトウェアのバージョン番号 (表示のみ)、ゾーンを選択し、ゾーンを表示	
(30)	---	出力・モジュール・ソフトウェアの改訂番号 (表示のみ)、ゾーンを選択し、改訂を表示	
(31)	---	T/C インพุット・ソフトウェアのバージョン番号 (表示のみ)、ゾーンを選択し、バージョンを表示 (モジュールあたり 16 ゾーン)	
(32)	---	T/C インพุット・ソフトウェアの改訂番号 (表示のみ)、ゾーンを選択し、改訂を表示 (モジュールあたり 16 ゾーン)	
(33)	---	データ・コンセントレータ・ソフトウェアのバージョン番号 (表示のみ)、ゾーンを選択し、バージョンを表示	
(34)	---	データ・コンセントレータ・ソフトウェアの改訂番号 (ディスプレイのみ)、ゾーンを選択し、改訂を表示	
(35)	---	オペレーターパネル・ソフトウェアのバージョン番号 (表示のみ)、バージョンを表示	
(36)	---	オペレーターパネル・ソフトウェアの改訂番号 (表示のみ)、改訂を表示	
(37)	000-999 (レベル 2)	セキュリティー・レベルの表示。0 = ロック、1 = オペレーター、2 = スーパーバイザー、0 - 入力すると 1 レベル低下 自分で設定した番号を使い、セキュリティー・レベルを一回に 1 段上げます	

基本的トラブルシューティング

熱電対 (T/C) オープン - T/C の接続が断絶。一般的トラブルシューティングに従います。

熱電対が反転 - T/C の接続があるポイントで + と - が逆に配線。接続を一つずつ目で見て検査し、J タイプ US スタンダードでは、赤の線が (-)、白の線が (+)。

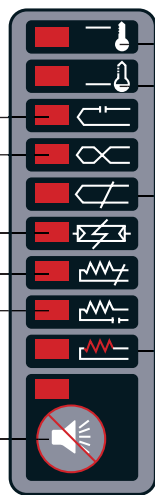
オープン・ヒューズ - モジュールのヒューズが不良。メインの断路器を「オフ」にします。モジュールの場所を確認し、ヒューズをすべてチェック。(モジュール・ライトの場所を確認 - ゾーンを選択してクリア アラーム・ボタンを押します。)

ヒーターがショート - ヒーターがショートしたかモジュールの上限値を超えています。一般的トラブルシューティングに従ってください。

オープン・ヒーター - ヒーターの接続が断絶。一般的トラブルシューティングに従ってください。

アラームをクリアして、ランプ/外部リレーをオフにします。押し、選択されているゾーンの「このモジュールのランプを見つけてください」を、15 秒間照らします。

アラーム



高温 (+20°F/11°C 初期値) - ゾーンの温度が事前設定の許容範囲を超過。

低温 (-20°F/11°C 初期値) - ゾーンの温度が事前設定の許容範囲より低下。

熱電対ピンチ - T/C がピンチか、コントローラーがピンチと認識 (初期値: 98+% 出力、5 分で +20°F/11°C になる必要)。真正ピンチ - T/C の温度表示が不安定か異常な値を示している。アラームが発せられていませんが、温度は低く、コントローラーは電気を供給しており、ヒーターに過大な出力がかかっている。偽性 T/C ピンチ - 当該ゾーンの加熱にはヒーターが小さ過ぎる。ヒーター交換、または、T/C の位置を移動する。もしくはコントローラアルゴリズムの設定を変更する。

無制御の出力 - モジュールの出力が無制御です。モジュールのゾーンは全て自動的に切れて「オフ」になります。

高温アラームも点灯 (点滅) している場合、重大な温度超過アラームを意味します。

一般的トラブルシューティング - メインの断路器を「オフ」にします

- 1 ホットランナーにおいてそれぞれの抵抗をチェック。連続性がない (ラインがオープン) = 接続が切れている場合、ヒーターあるいは T/C が切れています。
- 2 ホットランナーにおいてそれぞれヒーターとグラウンド間の抵抗をチェックします。ヒータのみ - 連続性がない (ラインがオープン) = 良好。導通がある場合、ヒーターのショートです。
- 3 ケーブルを再度ホットランナーに取り付け、ケーブルをコントローラーから外します。ケーブルに関しピンとピンとの間の抵抗をチェック。連続性がない (ラインがオープン) = 接続が切れている場合、ヒーターあるいは T/C の断線。又は、ケーブル・セットで接続が切れているか、コネクタ/ピンが抜けている。
- 4 ケーブルを再度モールドに取り付け、ケーブルをコントローラーから外します。ケーブルに関しピンからグラウンドまでの抵抗をチェック。ヒータのみ - 連続性がない (ラインがオープン) = 良好。どこかで抵抗が不良な場合、ヒーターがショートしています。線はケーブル・セットがショートしているか、コネクタからアースする間でショートしています。
- 5 この時点で全てが問題ない場合、問題はコントローラーにあります。(1) メインのブレーカを「オフ」にし、(2) 問題のあるモジュールの場所を確認し、(3) モジュールのヒューズをチェックし、(4) 不良なモジュールと良品のモジュールを入れ替え、(5) メインのブレーカを「オン」にし、(6) ゾーンをテストします。同じ問題がモジュールの移行に伴って発生する場合 = モジュールが不良です。同じ問題が元のゾーンで継続する場合、エラーは、モジュールと後部にあるコネクタの間で発生しています。入手可能であれば、そのモジュールを T/C インプット・モジュールと交換するか、あるいはデータ・コンセントレータ (通信モジュール) と交換してみてください。
- 6 ここで説明されていない問題や、予備の部品が必要な場合、以下にご連絡ください:

ガンマフラックス USA 電話: +1-(703) 471-5050
info@gammaflux.com; www.gammaflux.com

ガンマフラックス・ヨーロッパ電話: +49-(0)-611-973430
info@gammaflux.de; www.gammaflux.de

ガンマフラックス アジア・パシフィック
宇部市 (日本) 電話+81-(836) 54-4369
シンガポール 電話+65-901-83710
gammafluxjpn@gammaflux.com



- 1 出力・モジュール
- 2 熱電対インプット・モジュール
- 3 データ・コンセントレータ (通信モジュール)
- 4 電源 (アンダーデータ・コンセントレータ)
- 5 モジュール通信ケーブル
- 6 モジュール電源インプット/出力・コネクタ
- 7 メインブレーカ
- 8 熱電対インプット・コネクタ
- 9 電源出力・コネクタ
- 10 補助インプット・コネクタ
- 11 補助出力・コネクタ
- 12 インタフェース電源コネクタ
- 13 インタフェース通信コネクタ
- 14 接地つまみ
- 15 ファン